

## ドイツ語（初級B）／A ドイツ語 第28回 esの用法：仮主語と仮目的語、序数

範囲：教科書第17課（S. 67-69）

### 《今回の基本例文》

99. Er wartet darauf, endlich befördert zu werden. (CD87-2)

彼は、やがて昇進させてもらえるのを待っている。

[esの用法（**仮目的語 es**）、zu不定詞を受ける前置詞と人称代名詞の融合形、**zu不定詞**（受動不定詞）]

100. Wann ist dein Vater geboren?

– Er ist am neunzehnten Juni neunzehnhundertsiebenundachtzig geboren. (CD88-3)

君のお父さんはいつお生まれですか？ – 父は1987年6月19日に生まれました。

[**序数、西暦年、月日**、(状態受動)]

## I esの用法：仮主語、仮目的語

A. esの用法（2）：後続の語句を先取りする es (S. 64)

### 補足 仮主語、仮目的語としての es

名詞節や zu不定詞が長大な場合：esで先取りする

→ 名詞節や zu不定詞（＝本来の主語、目的語）は文末

◇ esの特殊な用法には、教科書第14課Bで学んだもののほか、後続の語句を先取りする**仮主語**や**仮目的語**としての用法も存在する。

\* すでに何度か登場し、解説した。（⇒教科書S. 35, S. 65）

### 1 名詞・代名詞を先取りする es

◇ 名詞節の副文や zu不定詞ではなく、一般の名詞や代名詞を先取りする用法。いずれも熟語的表現になる。あくまでも本来の主語は esではなく後続の名詞や代名詞なので、そちらが1格となることに注意。

・ Es passiert ... : 「...が起る」

Es passierte heute Morgen ein schwerer Unfall.

今朝、重大事故が起きた。

\* 本来の主語は ein schwerer Unfall.

・ Es ist ... : 「...がある」

Es war niemand zu Haus.

家には誰もいなかった。

= Es gab niemanden zu Haus.

\* 本来の主語は niemand. es gibt 構文では「ある」ものが4格で示されるのと比較せよ。

◇ 文学的文章などで書き出しを示したりする場合にも、こうした **es** が文頭に置かれることがある。

**Es** saßen viele Leute im Zug.

列車には大勢の人が座っていた。

\* 本来の主語は **viele Leute**。

## 2 副文を先取りして

◇ **名詞節**の副文 (**dass** 節、**ob** 節、**間接疑問文**など) は、仮主語や仮目的語の **es** で先取りすることができる。その場合、本来の主語や目的語である名詞節の副文は、コンマで挟んで文末に配置する。

\* もちろん、英語の *it* にも存在する用法。

**Es** freut mich, dass du kommst.

君が来てくれてうれしい。(= 君が来ることが、私を喜ばせる。)

\* **es** は仮主語で、本来の主語は **dass** 節 = **dass du kommst**。詳しい解説は授業第13回配付資料 S.3 へ。

**Mir ist es ganz egal, was sie über mich denkt.**

彼女が私のことをどう思おうと、私はまったく構わない(= 私にとってまったくどうでもよい)。

\* **es** は仮主語で、本来の主語は間接疑問文 = **was sie über mich denkt**。(⇒教科書 S.35)

\*\* **über** は「～について」の意味の前置詞。(⇒授業第8回配付資料 S.3)

## 3 zu 不定詞句を先取りして

◇ **zu 不定詞**も名詞扱いであるため、仮主語や仮目的語の **es** で先取りすることができる。やはり、本来の主語や目的語である **zu 不定詞**は、コンマで挟んで文末に配置する。

**Es** freut mich, Sie kennenzulernen.

あなたと知り合いになれてうれしい。(= あなたと知り合いになることが、私を喜ばせる。)

\* **es** は仮主語で、本来の主語は **zu 不定詞** = **Sie kennenzulernen**。分離動詞の **zu 不定詞**に注意。(⇒教科書 S.65)

**Ich habe [es] wieder einmal vergessen, ihm das Geld zurückzugeben.**

私はまたしても彼にお金を返すのを忘れた。

\* **es** は仮目的語で、本来の目的語は **zu 不定詞** = **ihm das Geld zurückzugeben**。引き続き分離動詞の **zu 不定詞**に注意。

\*\* この **es** はなくても文が成立するが、ある方が好まれる。

◇ **zu 不定詞**が前置詞を含む熟語の目的語となる場合、**zu 不定詞**の前にはその**前置詞と人称代名詞の融合形** (**da[r]**+前置詞) が置かれる。要するに、前置詞と仮目的語の **es** が融合形になる。

\* 教科書 S.65 および授業第27回配付資料 S.4 でも解説してある。

**Ich bitte Sie **darum**, möglichst pünktlich zu sein.**

← **Ich bitte Sie ~~um~~ es, möglichst pünktlich zu sein.**

できるだけ時間を守ってくださるよう、お願いいたします。

\* **darum** (⇒教科書 S.27) を分解すると **um es**、この **es** は仮目的語で、本来の目的語は **möglichst pünktlich zu sein**。

\*\* 使用されている熟語は **jn. um etw. bitten** (〈4格〉に〈4格〉を頼む)。(⇒教科書 S.24)

**練習問題の補足**

**Übung 1 (S. 67)**

1. an *et*<sup>4</sup>. denken で「〈4格〉のことを考える」。 (⇒教科書 S. 28)
2. auf *et*<sup>4</sup>. warten で「〈4格〉を待つ」。 (⇒教科書 S. 24)
3. mit *et*<sup>3</sup>. rechnen で「〈3格〉を計算に入れる」。

**補足練習問題 1**

() 内の指示に従い、以下の日本語の意味になるようにドイツ語作文をせよ。[] 内に語彙が与えられている場合は、それを用いること (各語彙は適切なかたちに変化させなければならない場合もある)。

1. この川で泳ぐのは危険である。(仮主語 *es* を用いないで)

[*gefährlich adj.* 危険だ *in diesem Fluss* この川で *schwimmen vi.* 泳ぐ]

2. この川で泳ぐのは危険である。(仮主語 *es* を用いて)

3. 美術館のなかでの写真撮影は禁止されている。(仮主語 *es* を用いないで)

[*Museum n.* 美術館 *fotografieren vi.* 写真を撮る *verboten adj.* 禁止された]

4. 美術館のなかでの写真撮影は禁止されている。(仮主語 *es* を用いて)

5. 彼は明日、はやく起きるつもりである。(仮目的語 *es* を用いないで)

[*früh adv.* 早く *aufstehen vi.* 起きる ~を計画している *vt. vorhaben*]

6. 彼は明日、はやく起きるつもりである。(仮目的語 *es* を用いて)

7. 彼女はラテン語を学びはじめる。

[*Lateinisch n.* ラテン語 *mit et*<sup>3</sup>. *anfangen* 〈3格〉をはじめる]

8. 彼はドイツ語を学ぶのを諦めねばならなかった。

[*auf et*<sup>4</sup>. *verzichten* 〈4格〉を諦める]

9. 君と映画に行く時間はない。

[*Zeit f.* 時間 *ins Kino gehen* 映画に行く]

10. 私はベルリンに事務所を開く計画を持っていた。(現在完了で)

[*Büro n.* 事務所 *aufmachen vt.* ~を開く 計画 *m. Plan*]

11. 私は自動車を買うためにお金を貯めている。

[*Auto n.* 自動車 *Geld sparen* お金を貯める]

12. 私の同僚は、日本文化についての講演を行うためにベルリンに行った。(現在完了で)

[*Kollege m.* 同僚 *japanische Kultur* 日本文化 *einen Vortrag halten* 講演を行う]

## II 数詞 (序数)

### 補足 序数

序数 = 基数 + t (19.まで)  
基数 + st (20.まで)  
例外: **erst** (1.), **dritt** (3.), **acht** (8.)

- ◇ 序数は「～番目の」を表す数詞で、英語の *first, second, third...* に相当する。
- ◇ 算用数字で記述する場合、「1.」や「12.」のようにピリオドをつける (国際共通)。
- ◇ 付加語として用いられるので、付加語的用法の形容詞と同じ変化をする。

### 《形容詞の復習》

用法: a) 付加語、d) 名詞化 (格変化あり)

b) 副詞、c) 述語 (格変化なし)

格変化: 無冠詞 → 強変化

定冠詞 (類) つき → 弱変化

不定冠詞 (類) つき → 混合変化

・強変化/弱変化/混合変化の表は教科書 S. 39-40 を、それらの覚え方は授業第17回配付資料 S. 3-4 を参照のこと。

- ◇ 建物の「階」は、日本語や英語における1階を *Erdgeschoss* (*n.* 地階) と呼び、日本語や英語における2階以降を *n-1* の序数を用いて表す。「階」は *Stock* (*m.*) か *Etage* (*f.*)。

\* *Etage* はフランス語からの外来語で、フランス語式発音になる。

Ich wohne im 5. (fünften) Stock.

= Ich wohne in der 5. (fünften) Etage.

私は6階に住んでいる。

- ◇ 高校以前の「学年 (*Klasse f.*)」は、最初の小学校入学からの通算年数を序数で表す。大学以降は、あまり学年という考え方をせず、在籍した学期 (*Semester n.*) 数を言うことが多い。

\* 地域によって異なるが、一般的には小学校 (*Grundschule f.*) が4年制、ギムナジウム (*Gymnasium n.*) が9年制。大学非進学予定者は小卒後に基幹学校 (*Hauptschule f.*) や実科学校 (*Realschule f.*) に行く。

Ich gehe in die elfte Klasse des Gymnasiums.

私はギムナジウム11年生です。

\* 小学校入学から数えて11年目という意味。小学校を4年生とすると、ギムナジウム自体には7年目になる。日本での高校2年生に相当する。

Ich bin im zweiten Semester.

私は (大学の) 2学期目に在学中です。

\* 日本での大学1年生後期に相当する。

1 月日・西暦年数 (S. 68)

日一月一年の順

日: 序数 (男性)、前置詞は **am**

月: 固有名、前置詞は **im**

年: 基数 (1年~1099年、2000年以降)

上 2 桁 + **hundert** + 下 2 桁 (1100年~1999年)、前置詞はなし

◇ ドイツ語の西暦年月日は、日一月一年の順。「日」を算用数字で書いた場合、句点を打つ。

\* 日本語 (年-月-日) と米式英語 (月-日-年) と異なり、英式英語と同じ。

12. Dezember 2023 = der zwölfte Dezember zweitausenddreißig (ドイツ語)

December 12, 2023 = December [the] twelfth, two thousand twenty-three (米式英語)

2023年12月12日 (日本語)

◇ 「日」は、

・ 男性定冠詞つき序数で表す。

Der Wievielte ist heute? / Den Wievielten haben wir heute?

今日は何日ですか。

- Heute ist der 3. (dritte) Juli. / Heute haben wir den 3. (dritten) Juli.

今日は7月3日です。

・「～日に」と言うとき、前置詞 **an** を用いる。ただし、日 (**Tag m.**) は男性定冠詞つき序数で表すので、

実質的には **an + dem** の融合形の **am** が現れる。

Wir haben **am** 5. (fünften) April geheiratet.

私たちは4月5日に結婚しました。

・ **曜日** は以下の通り。「何曜日に」は、やはり **am** を用いる。

日本語	ドイツ語	(英語)
日曜日	<b>Sonntag</b>	Sunday
月曜日	<b>Montag</b>	Monday
火曜日	<b>Dienstag</b>	Tuesday
水曜日	<b>Mittwoch</b>	Wednesday
木曜日	<b>Donnerstag</b>	Thursday
金曜日	<b>Freitag</b>	Friday
土曜日	<b>Samstag / Sonnabend</b>	Saturday

\* 基本的には英語と似ており、同じくゲルマン神話の神々に由来している。水曜日の Mittwoch 「週 (Woche) のまんなか」に

注意。もともとは英語 (Wednesday) と同じ「ヴォータン (= 北欧神話のオーディン) の日」Wotanstag だったらしい。

Die Sitzung findet **am** Freitag, dem 15. (fünfzehnten) Januar in der «Kleinen Halle» statt.

会議は1月15日金曜日に「小ホール」で開催されます。

\* Freitag と同格であるため、「1月15日」は dem 以下の3格で記載されている。

◇ 「月」は、

- ・月名には英語同様に固有名があるので、まずそれを覚える。

日本語	ドイツ語	(英語)	日本語	ドイツ語	(英語)
1月	Januar	January	7月	Juli	July
2月	Februar	February	8月	August	August
3月	März	March	9月	September	September
4月	April	April	10月	Oktober	October
5月	Mai	May	11月	November	November
6月	Juni	June	12月	Dezember	December

\* やはり英語に似ており、いずれもラテン語起源である。ただし、発音はドイツ語式であり、綴りも微妙に異なるもの (Oktober, Dezember など) があるため、そこには注意。

\*\* 正式名称の代わりに数字 (日本語の n 月と同じ) で表すことがあり、その場合は「日」同様に序数を用いる。

- ・「～月に」と言うとき、前置詞 **in** を用いる。ただし、月名はすべて男性で定冠詞をつけるので、実質的には in+dem の融合形の im が現れる。

◇ 「西暦年」は、

- ・1年から1099年まで、および2000年以降：単なる基数でよい。
- ・1100年から1999年まで：上2桁+hundert+下2桁 (〇〇×100+△△という考え方)。

\* 上2桁と下2桁を分けて考えるのは英語と同じだが、ドイツ語では hundred が必要。

\*\* また、英語と異なって分ち書きもしない。「1999年」は英語では *nineteen ninety-nine*、ドイツ語では *neunzehnhundertneunundneunzig*。

- ・「～年に」と言うとき、通常は前置詞を用いず、副詞的4格とする。
- ・年月日をすべて言うときは、前置詞は **am** だけでよい。

Ich bin **am** 16. (*sechzehnten*) Mai 1991 (*neunzehnhunderteinundneunzig*) in Heidelberg geboren.

私は1991年5月16日にハイデルベルクで生まれました。

\* 「生まれた」と言う場合、gebären (-gebar - geboren, vt. 〈4格〉を生む) の状態受動の現在を用いる。

◇ 書類や手紙に日付を書く場合は、副詞的4格を用いるか、単に1格とする。

Tokyo, **den** 12. (*zwanzigsten*) Dezember 2023 (*zweitausenddreißig*)

Tokyo, 12. (*zwölfter*) 12. (*zwölfter*) 23 (*zweitausenddreißig*)

\* 下は略式の書き方。月名ではなく数字を用いており、無冠詞のためいずれも強変化1格をしている。

**補足練習問題 2**

次の西暦年をドイツ語で言え。

1. 794   2. 1192   3. 1333   4. 1492   5. 1600   6. 1789   7. 1815   8. 1848   9. 1968   10. 2001

**連絡先など**

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>